

飯盛物語 2



学校教育目標

「命をだいに 人をだいに 自然をだいに美しく」

～やる気(心) 思いやりの心 たくましい心の育成～

飯盛中テーマ「自立 創造 貢献」

R6年度の合言葉「日々前進！」

～昨日の自分よりもさらに一歩前へ！～

第8話 令和6年7月9日発行

校長 池田英二

7月2日(火) 令和6年度「少年の主張 諫早市大会」

先日、小野ふれあい会館で「少年の主張 諫早市大会」が開催されました。本校3年生富岡和虎君が市内中学3年生16人の1番目に、緊張しながらも堂々と発表しました。富岡君の演題は「不安な未来? 明るい未来?」です。発表原稿を紹介いたします。

「不安な未来? 明るい未来?」

「帝国データバンクの調査で、6月、値上げされる食品は614品目」、ついでに大きなため息。物価が上昇し始めた2022年は、まだまだ変化がわからなかった。しかし、今では昔との差がはっきりとわかるほど変化している。電気代、エネルギー代、食品・雑貨。いろいろな物の値段が高くなった。なんでこんなに高くなるのだろう。もう少し安くないのか、と思う日々である。ある日、スーパーに行った時、買うものが決まっていたため、その定価と少しだけ足した分のお金を持っていった。しかし、値段の書かれた札を見てみると、それをはるかに上回っていた。店の人に聞くと、「最近物価高でどんどん高くなったよ」と言われ、驚いたのを覚えている。よく食べていたお菓子も二ケタだったのに、今では三ケタになっている。物価高で困るのは食品だけではない。学校から帰り、机に置いてある電気代の請求書を見て驚いた。今ではただ高くなるだけではなく、国の保障などもなくなったため、4万円だったのが5万円に、5万円だったのが6万円になった。月日が流れるにつれて、段々と高くなっていく。最後にはいくらになるのだろう。想像もつかない。想像もつかないがきっと電気を使う場面は減っていくだろう。もしかしたら、電気を使わない家庭が出てくるかもしれない。最後には、誰も電気を使わず、夜になってもどこの家にも明かりがつかない、そんな暗い町が出てくるかもしれない。



どうしてこんなに物の価格が高くなるのだろう。ネットで調べると、やはり一番多く載っている言葉は、「戦争」の二文字だった。現在は、アジアやヨーロッパで戦争が起きている。その中でも、ロシアのウクライナへの軍事侵攻は、物価高に大きく影響している。ロシアは、たくさんの国にエネルギーを輸出している。もちろん、日本も例外ではない。しかし、戦争でエネルギーの輸入がしづらくなり、燃料などの物価高騰につながっているのだ。



ウクライナ・ロシアのようにニュースでたくさん報道されているような戦争も、聞いたことがないような国で、行われている戦争も、すべて同じだ。違う国、違う州、違う大陸の戦争でも、必ず僕たちの生活に影響する。僕たちが戦争をしている国にニュースを見ながら文句を言っている時でも、物価は高くなり続けている。

物価を変えずに内容量を減らして補っているなどの対策をしているとニュースで聞いたことはあるが、結局は戦争が終わらないと物価は高くなり続ける一方だ。戦争が続いて大きくなり、世界大戦になれば、日本も大正や昭和の時代に戻ってしまう。今の日本を見て「そんなことはあり得ない」誰がそんなことを言えるだろうか。

ちょっといい話

彼の描く優しい筆遣いの絵画と慈愛に満ちた詩は、これまでどれほどの人々の心を救ってくれたのであろうか。去る4月28日、詩画作家の星野富弘氏が逝去された。78歳だった。市は昭和21年群馬県生まれ。45年に中学校の新任体育教師として赴任して間もなく、クラブ活動の指導中に頸椎を損傷、手足の自由を失う。その後、9年間にも及ぶ入院生活を余儀なくされるが、氏は病院のベッドの上で口に筆をくわえ、創作活動に取り組み、素晴らしい作品を生み出していく。



希望に満ちた新任教員生活から一転、事故によって始まったのは身体を動かさない不自由な日々。その失意は、どれほど深いものであったか。しかし後年、心の平静を取り戻した氏は、「不自由と不幸は、結びつきやすい性質をもっていますが、まったく別のものだったのです。」とつぶっている。「人間万事塞翁が馬」など、人生の幸不幸にまつわる格言は、いずれもどこか説教じみた感じがする。星野富弘という詩画作家は、これをこんな詩にしている。「幸せという花があるとすれば その花の蕾のようなものだろうか 辛いという字がある もう少しで幸せになれそうな気がする」。氏の作品はこれからは人々の心を揺さぶり、癒していくだろう。(日本教育新聞より)

2年生職場体験学習（7月4日木曜日～5日金曜日）



【Aコープ飯盛店】



【コメリ飯盛店】



【月の丘温泉】



【レ・フルール】



【珠光幼稚園】



【飯盛グリーン開発】



【ふじ幼稚園】



【常光保育園】



【ミヤザキオート】



【江の浦神社】



【フレッシュ251】



【ナガサキロジスティクス】

2年生の2日間の職場体験学習が無事に終了いたしました。私も、初日に、飯盛町にある全12事業所へ挨拶にまわらせていただきました。その時に、感謝の気持ちで一杯になりました。それは全12事業所において、それぞれの担当の方々が、本校の生徒一人ひとりに対して、大切に丁寧に対応してくださっていたことです。本当にありがたかったです。生徒は、不慣れなので業務に支障をきたすこと、失敗をすることやご迷惑をおかけすることがあるかもしれないと心配しておりましたが、大きな温かい心で受け入れて、しっかりと指導していただきありがとうございました。今回、職場体験学習に参加した2年生の生徒全員が学校生活では学ぶことができない多くのことを学び一回り大きく成長できたのではと思っています。今回学んだことをこれからの学校生活に生かしてほしいです。

3年生「行政相談についての出前授業」（7月5日金曜日6校時）

3年生の社会科の授業で、総務省の長崎行政相談センター所長の右田哲夫様、課長中尾武士様と飯盛町在住の総務省行政相談員の石田美津子様に来校していただき、3年生を対象に、行政相談についての出前授業を行っていただきました。まず行政についての説明から始まりました。行政とは、三権分立のうちの一つで法律や予算にもとづいて国民のための仕事を行うもので、わかりやすく言うと国民の安全を守り国民一人ひとりが安心して暮らせるように、国や都道府県市町村が仕事をおこなうことを言います。さらに、日々の暮らしの中で、「不便だなあ、困ったなあ」と思うことがあったら、これらの困りごとを受け付けて、その解決のために取り組む国の制度が「行政相談制度」なのです。相談を受け付ける所は、全国にある行政相談センター（きくみみ）などで行政相談員に相談することができます。相談方法は、事務所に行って相談、電話、インターネット、手紙、FAXのどれでもOKです。このような説明が中尾課長さんからありました。その後で、飯盛町在住の行政相談員の石田美津子様から、飯盛町内で相談を受けて解決した事例をいくつか教えていただきました。例えば、バス停にベンチを設置する。危険な箇所に、ガードレールを設置するなどの取組を教えていただきました。3年生にとっても、私にとっても、たいへん良い勉強になりました。右田様、中尾様、石田様、ありがとうございました。

